

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復がみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

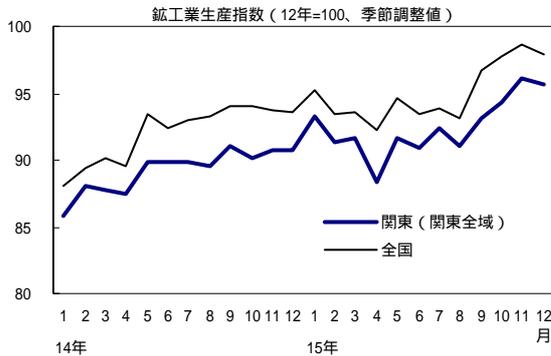
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）
景況判断	持ち直しの動きが続いている	緩やかな回復がみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。（関東全域）

一般機械は、デジタル民生機器用の半導体製造装置が好調なことや11月に印刷機械でスポット的な受注生産があり、引き続き高い伸びを示している。化学は、中国を中心としたアジア向け輸出が堅調に推移しているため、引き続き増加した。輸送機械は、トラックが排ガス規制による買い換え需要で堅調であるため、引き続き高水準で推移している。情報通信機械は、10月にカーナビゲーション、11月には携帯電話向けの部品、11～12月にかけてDVDが増加したこともあり、引き続き高水準で推移しているが、前期比でやや減少に転じた。電気機械は、国内半導体メーカー向けの半導体・IC測定器が好調であり、大幅な増加に転じた。



（備考）平成 15 年 12 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

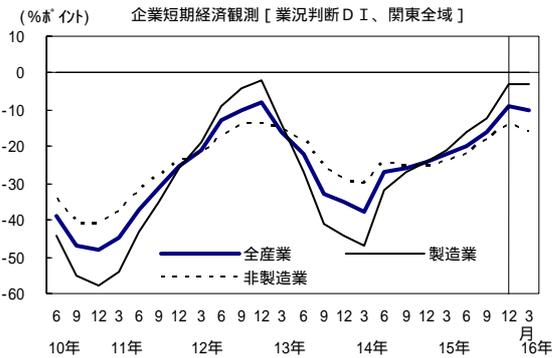
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
一般機械	13.8	6.8	7.2	7.9	7.7
化学	13.7	1.1	2.9	1.7	0.4
輸送機械	11.3	5.7	2.5	1.7	9.0
情報通信機械	8.6	1.0	0.9	2.4	6.0
電気機械	7.9	0.1	8.8	9.8	6.3
鉱工業	100.0	2.1	3.5	3.5	1.0

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

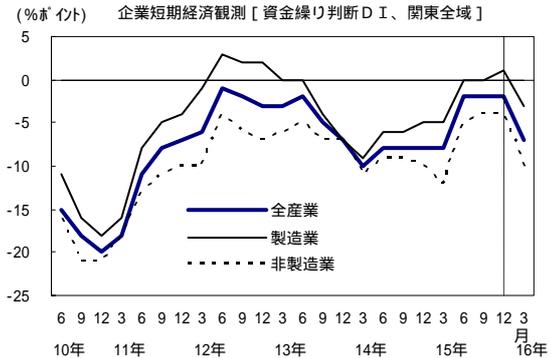
2. 10～12月期は速報値。

3. 10～12月期の化学の生産、出荷については、10月、11月確報値の平均より算出。在庫については、11月確報値。

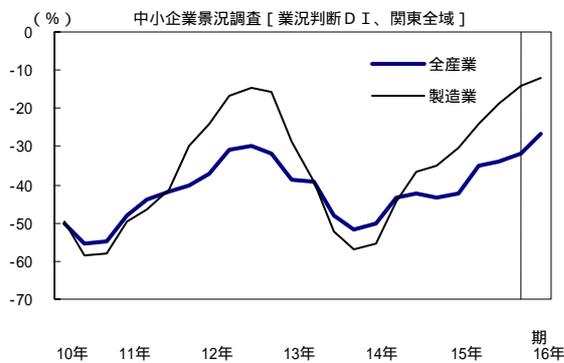
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

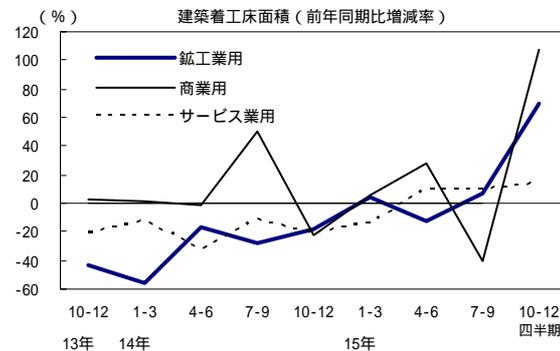
「教育、健康関連などの個人向けサービス業や設備投資関連製造業などの一部に動きがあるが、スーパーなど日常生活の消費財関連では、大きな変化がない(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査、関東全域)]
(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	3.3	0.1(0.4)
製造業	13.9	1.9(0.5)
非製造業	2.1	0.3(0.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

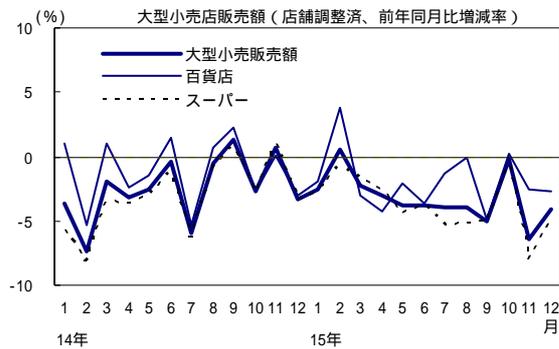
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は、気温の低下やセール効果等により衣料品の秋冬物に動きがみられ、身の回り品にも動きがあったことから、全体でも8か月ぶりに前年を上回った。11月は、気温が高めに推移したことから、季節商材等が不振となり、再び前年割れとなった。12月は、前月よりはやや持ち直したものの、暖冬の影響により冬物衣料や暖房器具等が振るわなかったため、前年を下回った。

スーパーは、10月は、気温の低下により衣料品が好調となり、全体でもわずかに前年を下回る程度になった。11月以降、暖冬の影響による季節商材等の不振から、全店ベースでも、前年をやや下回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

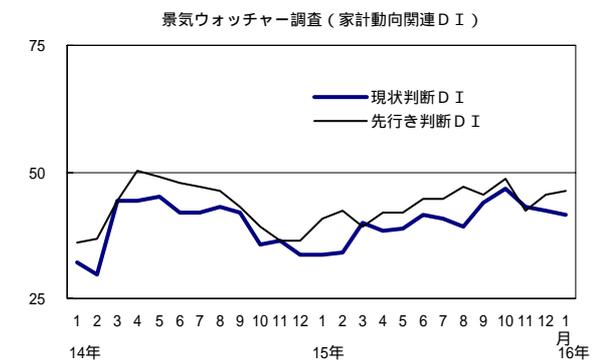
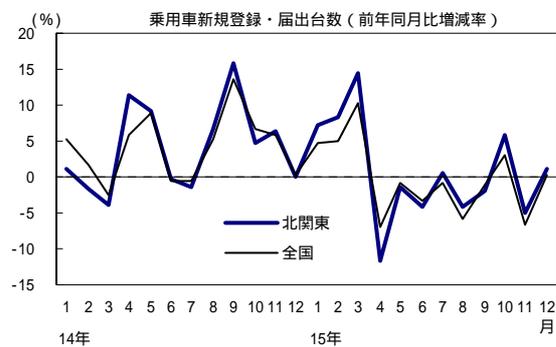
「11～1月の来客数は前年比95.7、97.5、98.3%と、これまで続いていた減少傾向に歯止めがかかりつつある(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.5	3.5	4.3	3.7
百貨店	0.8	3.4	2.1	1.8
スーパー	1.8	3.6	5.2	4.5
乗用車	10.9	5.7	1.6	0.5
景気ウォッチャー	35.9	39.6	41.3	44.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。15年10-12月期は速報値。

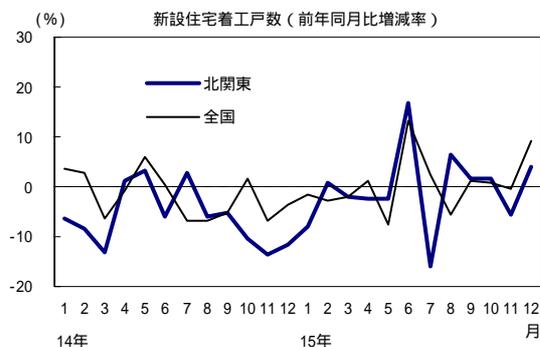
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

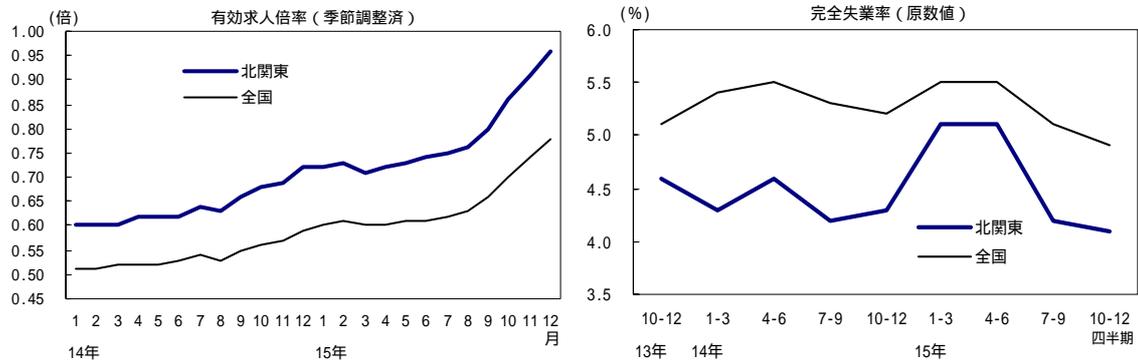


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月調査）[雇用関連（現状判断）]

「デジタルカメラやDVD関連などデジタル機器の需要が拡大していることから、管内の主要産業であるIT関連の求人が増加してきている（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数 (前年比)	231 8.7	254 2.0	170 30.9	172 27.7	52 33.3
負債総額 (前年比)	775 60.8	2,178 83.8	818 22.3	684 51.2	292 13.8



景気ウォッチャー調査（1月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

・この2～3か月は苦しいながらも徐々に前年並みの水準に近づいてきている（スーパー）

<先行き>

・春物商品の実需時期であるが、売上が天候次第で左右するので予測が難しい。銀行の国有化など、社会的不安の影響から、購買客数の増加や客単価の下げ止まりは期待できない（衣料品専門店）

景気ウォッチャー調査（合計DI）

